

ご入学おめでとうございます。

みなさんに直接に対面して、お祝いの言葉をのべることができないことを、申し訳なく残念に思っています。

みなさんは、世界も日本も、新型ウィルスの危険に直面しているさなかに、法政大学法学部に入学してきました。入学式もなく、ガイダンスもWEB上でおこなわれ、授業開始も遅れるという状態は、これまで慣れ親しんだ環境から切り離されたみなさんが、新たな場所で友を得、知性を磨き熟慮を重ねて、未来を切り開いていくことを妨げています。そのことについて、受け入れる側を代表して、深くお詫びします。

社会が平常へと復帰し、大学が平穏を取り戻し、授業が開始されるまでのあいだ、みなさんには、危険に晒されている世界や社会や人間について観察し、考える時間があります。これまでに培ってきた知力を使って、現状を分析し、なにが望ましい未来なのかを考え抜きましょう。

山中伸弥氏は、新型ウィルスとの闘いをマラソンに例え、「いかにバテずに対策を続けていくか」が大切であるというメッセージを発しています。「バテないこと」、それは知性の本質的な属性であり、その担い手であるべきみなさんの果たすべき務めでもあります。新型ウィルスとの闘いをおしても、みなさんは、世界と社会を理解し、それと繋がることができます。

世界と社会の一員であることを自覚すること、そのよりよき状態に向けて考察と実践を積むこと、それが法学部における学びです。

授業が開始されたとき、みなさんは、それまでのあいだに重ねられた知の営みを、教室で、友との集いのなかで、日常での生活のなかで、検証し、反省し、そうして、発展させていくことができるでしょう。もちろん、われわれ教員もまた、みなさんとおなじ試練の場にさらされています。われわれとみなさんとが相対するときは、みなさんがたがいに相対するときとおなじように、出会いの喜びの時であり、それぞれが実践してきた知力の格闘を経てのとものでの学びの始まりの時です。

その時まで、自分のみならず、他者にも配慮しながら、日々を過ごし、晴れやかな姿で大学の門を入ってきてください。

2020年4月7日

法学部長 中野勝郎